

スイートスプリング

登録番号：第298号

登録年月日：昭和57年10月21日

登録者：農林水産省果樹試験場（静岡県清水市興津中町485-6）

育成者：西浦昌男 木原武士 七條 寅之助 吉田俊雄 山田彬

雄 上野 勇 岩崎藤助 岩 政正男

来 歴：「上田温州」と「はっさく」の 交雑実生

育 成 地：静岡県清水市（農林水産省果 樹試験場興津支場）

特 性

■栽培特性

樹勢はやや強く、幼木時にはやや直立性であるが、結果し始めると開張する。枝梢の大きさは中程度である。若木の時や徒長枝には多少とげを生じるが、樹勢が落ち着けば発生しなくなる。葉は中程度の大きさで、温州ミカンより丸みを帯びる。花は単生し、大きさは中程度で温州ミカンより小さい。単為結果性は弱いが、結実性に問題はなく、豊産性である。しかし、隔年結果の傾向が多少認められる。樹体の耐寒性はかなり強く、温州ミカン程度である。冬季の落果はほとんどない。

■果実特性

果実の大きさは250g前後で、含核数により多少変動するが玉揃いは良い。果形指数123位の扁球形で、果頂部は平坦、果梗部は球面状である。果皮は黄橙色で、厚さ4mm内外、果皮歩合は約30%である。油胞は中ぐらいの大きさで分布は疎、凹凸が混じり、果面は粗い。果皮は硬く、しまりが良く、剥皮は困難である。ナイフで切って食べる食べ方がよい。果肉は黄橙色で肉質はやや硬いが、果汁は多い。じょうのう膜はやや硬い。果心は小さく充実している。含核数は平均6粒程度で少ない。種子は単胚性である。果汁の糖度は12～13%程度で、減酸が早く、12月には1%程度になり、適熟期には0.8%程度になる。適熟期の甘味比は高く、食味は大変良い。成熟期は2月で早春の生食向け出荷に適する。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

そうか病に対しては中程度の抵抗性を示し、温州ミカンより強い。かいよう病に対してはオレンジ類ほど弱くはないが、温州ミカンよりやや弱い。夏秋梢の発生の多い若木の時期には注意する必要があるが、特に大きな問題ではなく、栽培は比較的容易である。カンキツトリステザウイルスによる樹の衰弱は認められていない。

11月下旬から果皮の着色が始まるが、時により緑色の抜けが悪く、完全着色が遅れて2月下旬頃になり、酸の減少とアンバランスになることがある。しかし、樹上に長く成らせておくと軽いす上がりを起こして商品価値が落ちる。酸含量は12月に1%を切ることもあるが、糖度は2月まで高まるので、品質面からは2月中下旬まで成らせておくのがよい。そのため、採取適期の幅は比較的狭いので、採取時期に注意する必要がある。

■地域適応性

樹体の耐寒性は強い方であるが、採取適期が2月であるので果実が寒害に遭う危険がある。また、温度の低いところでは品質が劣るので、冬季温暖な地域を選び栽培する。着色良好で食味のよい果実を生産するためには、排水が良く、日当たりの良いところが望ましい。発表後23年経過しているが、まとまった産地はない。平成11年の栽培面積は約60ha、生産量は約700tで、宮崎県、香川県でそれぞれ約200tの生産がある。皮が硬くて剥きにくく、外観的な美しさに若干欠けるが、食味が良いので食べた人の評価は良い。近年特に酸味の少ないものが好まれる傾向にあるので、販売方法を工夫し、消費の拡大をはかる必要がある。

(吉田俊雄)